

# トキ舞ういしかわアクションにとりくもう！

トキがすむことができる環境をめざして、身近な“アクション”にとりくもう！

このシートを読んで、家族や友だちなどまわりの人にトキの知識をひろめる

トキの本を読んだり、トキのデジタルコンテンツを見たりして、トキについてもっとしらべる



デジタルコンテンツとはトキってどんな鳥？トキが飛んで来たかどうかやってみる？などわかりやすくまとめた動画です。詳しくはこちら！県ホームページで公開中！

いしかわ動物園や佐渡へ行き、本物のトキやトキがすむ環境を見て理解をふかめる

生きもの調査や自然観察会に参加して、トキを育てる環境にふれる



## トキクイズにチャレンジ!

トキのことがわかってきたかな？トキクイズに挑戦して、さらにトキに詳しくなろう！めざせトキ博士！

**問題1** トキの飛行速度はどのくらい？  
①時速20km ②時速60km ③時速120km

**問題2** 昔、日本でトキがすんでいたところは？  
①日本中 ②日本海側だけ ③石川県だけ

**問題3** トキが減少してしまった原因は？  
①伝染病が流行したため ②乱獲や森林伐採などのため ③外国に移動したため

**問題4** 放鳥受入の候補地として、選ばれた地域は？  
①石川県内全域 ②加賀地域 ③能登地域

**問題5** トキはどのようにエサを探す？  
①目でよく見る ②クチバシを使う ③においをかぐ



石川県生活環境部自然環境課トキ共生推進室  
〒920-8580 石川県金沢市鞍月1-1 TEL:076-225-1508 FAX:076-225-1479  
石川県ホームページ: <https://www.pref.ishikawa.lg.jp/sizen/index.html>  
能登地域トキ放鳥受入推進協議会ホームページ: <https://www.pref.ishikawa.jp/sizen/toki/index.html>

②: 5 鷓鴣、③: 4 鷓鴣、④: 3 鷓鴣、①: 2 鷓鴣、②: 1 鷓鴣 【トキクイズにチャレンジ】

# トキ舞ういしかわアクション

～トキが羽ばたくいしかわをめざして～



石川県は、本州で最後にトキが生息していた土地であることから、いしかわ動物園においてトキの飼育にとりくむとともに、動物園で生まれたトキを自然に帰す国のとりくみに協力しています。

トキの保護やトキを育てる環境づくりの大切さをみんなが知り、行動(アクション)につなげることで、「トキが舞ういしかわ」の実現をめざします。

## トキってどんなトリ？

### 顔は赤く、立派な冠羽

トキの特徴の一つが遠くからでも目立つ真っ赤な顔。後頭部の冠羽も長く立派です。

### クチバシはセンサー

クチバシは先端まで神経が行き渡り、センサーのようになっていて、目で見なくても触れただけで、エサを探り当てることができます。



### トキの食べ物

長いクチバシを泥の中に入れて、ドジョウやカエルなどを食べます。

### 羽はうすいピンク色

体は全体的に白っぽく、羽はきれいな薄いピンク色で、トキ色とも呼ばれています。トキは最速で時速60kmで飛行します。

- 分類:ペリカン目トキ科トキ属
- 学名:Nipponia nippon (ニッポニア ニッポン)
- 特別天然記念物、国際保護鳥
- 絶滅危惧IA類、国内希少野生動物種

## 石川県とトキ

石川県とトキのつながりは深く、能登では昭和の初めころまで空を舞う姿がよく見られました。しかし、里山が荒れたことなどにより、その数は減り、1970年に穴水町で最後の1羽「能里」を保護し、新潟県の佐渡に移されたことで、本州からトキが姿を消しました。

石川県にトキが再び戻ってきたのは、40年後の2010年。鳥インフルエンザなどからトキを守るために、佐渡トキ保護センターで飼育していたトキのつがい2組を、いしかわ動物園に移送し、飼育が始まりました。



本州最後のトキ能里のはく製 (石川県立歴史博物館収蔵)

## なぜ、トキは減ってしまったの？



トキは江戸時代頃までは日本全国で見られるごくありふれた鳥でした。

ところが、明治時代以降、人がトキの「美しい羽」や「肉」を求めて乱獲したことにより、数は減り、昭和時代以降、農薬の使用によるトキのエサとなるドジョウなどの減少、天敵(テン等)の増加、森林伐採によるねぐらの減少など、生息環境が悪化したことで減少に拍車がかかり、日本産のトキは絶滅してしまいました。



テンに食べられてしまったトキ  
(石川県立歴史博物館収蔵)

また、トキは田植え後の苗を踏み荒らす害鳥だったと言われています。



## トキが日本の空に戻るまで

本州最後のトキ「能里」と同じように、佐渡で野生のトキを保護し、繁殖にとりくみましたが、思うように進まず、日本産のトキは絶滅してしまいました。

1999年に中国から贈られたトキによる繁殖に初めて成功し、その後、飼育しているトキの数がふえたことで、国は、2003年からトキを自然に帰すと取り組みをスタートしました。

佐渡では、自然環境を再生すると取り組みが続けられ、2008年、トキが佐渡で放鳥されました。現在、500羽をこえるトキが野生で生息し、石川県には、これまでに3羽飛来しています。



佐渡での野生放鳥の様子  
(環境省提供)

## 石川県でのトキの放鳥に向けた取組



石川県では、早ければ令和8年度のトキ放鳥に向けてトキが暮らしやすい環境づくりにとりくんでいます。

昨年、5月22日を「いしかわトキの日」に制定し、トキや生物多様性について楽しく知ってもらうため、記念キックオフイベントを開催しました。



「いしかわトキの日」記念キックオフイベント

トキが羽ばたくいしかわを目指して、トキへの理解を深めながら、関係者で力をあわせて、トキと共生する里地づくりの取り組みを推進していきます。

## いしかわ動物園でのトキ飼育



トキを鳥インフルエンザなどの感染症から守るため、佐渡以外にも全国4か所(東京都、石川県、島根県出雲市、新潟県長岡市)でトキの飼育がおこなわれています。

いしかわ動物園でのトキを守るとりくみを見てみよう。

### 交尾・産卵(4月ごろ)



交尾から1週間～10日間ほどで産卵します

### ふ化(5月ごろ)



オスとメスが交代で卵を温め、約28日でふ化します

### 巣立ち(6月ごろ)



ふ化から約40日で巣立ちします。10月ごろ、佐渡に移送します



佐渡では多くのトキが舞っています



## トキの飼育員の仕事

繁殖期のトキの飼育員は大忙しです。エサの準備、飼育舎の掃除といったいつもの作業に加え、ヒナたちのお世話も行わなくてはなりません。録画した動画を見ることも大切な仕事で、親からヒナへエサを与える回数が少ない場合には、巣まで行って親に代わってヒナにエサを与えます。一度に多くのヒナを同時に育てている時には、そのヒナを区別できるように色を付けたり、足環を装着したりもします。また、繁殖期の親鳥はヒナにエサを与えるためにたくさんのエサを食べるので、ヒナの成長にともないエサの量が変わり、毎日ちょうど良い量を調整して与えます。



ヒナに餌を与える



ヒナを区別できるように色を付ける

飼育員は、親鳥が健康に過ごせるように、そしてヒナたちが順調に成長できるように、日々きめ細かく観察し、飼育をしています。

## トキを育む環境をめざして



トキは、田んぼや水路などでエサをとり、集落近くの森や林で巣をつくるなど、里山をすみかとする鳥で、たくさんの生きものが生息する豊かな里山がないと生きていくことができません。トキが人といっしょにくらしていくために必要な環境について、みんなで考えてみよう。

### 生きもの豊かな田んぼ

トキは田んぼや湿地などの水辺で、どじょうやカエルなどの小さな生きものを食べます

### トキを見守る環境づくり

野生のトキを見かけたらトキに近づかず、やさしく静かに見守りましょう

### 健全な森林環境

トキは山間地の高い木(スギやマツなど)をねぐらにします

「トキがすむことができる環境」をめざして、身近な「アクション」にとりくもう!

次ページへ

